

◆ 第 5 学 年 ◆

参加人員	平均点
3,771人	67.75点

得点分布表

得点分布	0～ 9	10～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80～ 89	90～ 99	100 点	標準偏差	平均点 (点)
百分率 (%)	0.2	0.7	3.4	3.3	9.1	11.6	16.1	19.3	21.6	13.0	1.7	19.36	67.75

問題別正答率

問題番号				観点	正答率	問題番号				観点	正答率
[1]	[あ]		①	知識・技能	65.2	[5]	[あ]		⑬	思考・判断・表現	89.2
	[い]		②	知識・技能	64.9		[い]		⑭	思考・判断・表現	53.3
	[う]		③	知識・技能	62.3	[6]			⑮	思考・判断・表現	34.6
	[え]		④	知識・技能	29.1	[7]	ア		⑯	知識・技能	56.5
[2]		⑤	思考・判断・表現	67.8	イ			⑰	知識・技能	77.9	
[3]	[あ]		⑥	知識・技能	70.2		ウ		⑱	知識・技能	93.5
	[い]		⑦	知識・技能	61.0		エ		⑲	知識・技能	52.6
			⑧	知識・技能	86.6						
	[う]		⑨	知識・技能	61.6						
[4]	[あ]		⑩	知識・技能	89.6						
			⑪	知識・技能	82.7						
	[い]		⑫	知識・技能	93.5						

問 題

令和3(2021)年度
奈良県社会科診断テスト問題

第5学年

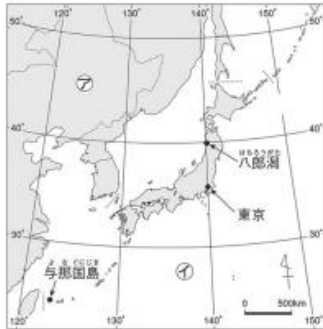
組

番

名前

点

1 日本の国土やまわりの国々について、次の地図を見て、下の問いに答えましょう。



(あ) ⑦の国の名前を書きましょう。

65.2

答え **中華人民共和国**

誤答例 その他(15.2) (知識・技能) ①

(い) ⑧の海洋の名前を書きましょう。

64.9

答え **太平洋**

誤答例 その他(7.9) (知識・技能) ②

(う) 東京から日本の西のはし(与那国島)までのきよりを、次の①～③の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

① 約1000km ② 約2000km ③ 約3000km

62.3

答え **②**

誤答例 ③(28.8) (知識・技能) ③

(え) 秋田県の八郎潟の緯度・経度を、次の①～④の中から正しいものを一つ選んで、その番号を書きましょう。

① 北緯 40度 西経 140度
② 北緯 140度 東経 40度
③ 北緯 40度 東経 140度
④ 南緯 40度 東経 140度

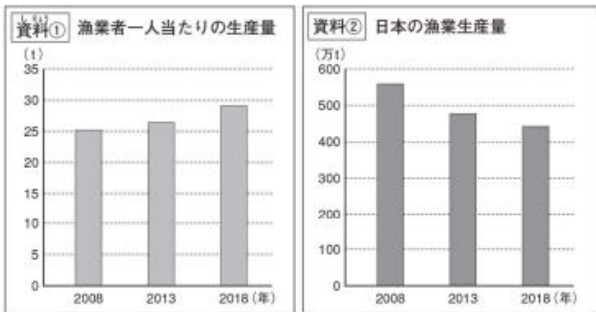
29.1

答え **③**

(知識・技能) ④

誤答例 ②(53.9)

2 次の資料①と資料②の両方を使って、あなたが「なぜかな?」と思うことを書きましょう。

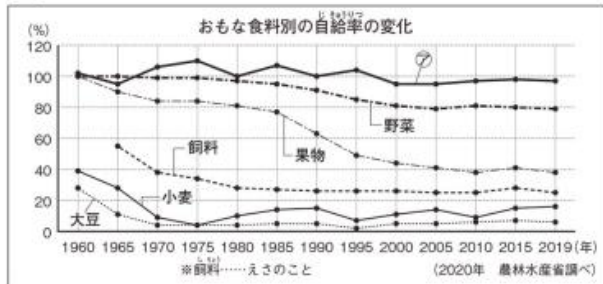


なぜ
の、
に、
答え **正答(67.8)**

(思考・判断・表現) ⑤

誤答(32.2) / うち無記入(11.8)

3 日本の食料生産について、次の資料を見て、下の問いに答えましょう。



(あ) 上の資料の⑦にあてはまるおもな食料を次の①～③の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

70.2

① 魚がい類 ② 肉類 ③ 米

答え **③**

誤答例 ①(15.6) (知識・技能) ⑤

(い) 上の資料を見て、次の①～⑤の中から正しいものを二つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① 小麦の自給率は、1960年から20%をこえたことがない。
- ② 大豆の自給率は、だまかにみると上がってきている。
- ③ 野菜の自給率は、1960年から70%以上で変化している。
- ④ 飼料の自給率は、40%から60%の間で変化している。
- ⑤ 果物の自給率は、1960年と比べて、2015年は大きく下がっている。

答え **③ 61.0 ⑤ 86.6**

誤答例 ①(22.2)④(12.3) (知識・技能) ⑦⑧

(う) 「地域で生産したものをその地域で消費すること」を何といいますか。

答え **地産地消**

誤答例 その他(26.0) (知識・技能) ⑨

4 日本の自動車工業について、次の問いに答えましょう。

(あ) 自動車づくりについて、次の①～⑤の中から正しいものを二つ選んで、その番号を書きましょう。

- ① しょうとつ実験は、乗っている人の安全を守るために行われている。
- ② 効率よく自動車を作るために、すべての作業をロボットが行っている。
- ③ 全ての部品は、一つと同じ工場で作られ、運ぶ時間を短くしている。
- ④ 関連工場は、必要などきに必要量の部品を自動車工場に届けている。
- ⑤ 一人の人が、責任を持ってすべての部品を取り付けている。

答え **① 89.6 ④ 82.7**

誤答例 ⑤(10.8)③(5.4) (知識・技能) ⑩⑪

(い) 次の資料から分かることについて、下の()の中から正しい言葉を選んで、○をつけましょう。



答え 自動車の(**国内**・海外)での生産台数はあまり変わっていないが、(**国内**・海外)での生産台数は増えている。

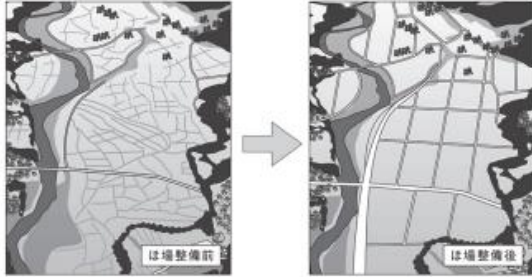
93.5

完答(知識・技能) ⑫

誤答例 海外・国内(6.2)

問 題

5 日本の米作りについて、次の資料を見て、下の問いに答えましょう。
 (あ) 次のイラストは、ほ場整備(耕地整理)前後の土地のようすを表したものです。イラストと関係の深い言葉を下の①～③の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。



①品種改良 ②アイガモ農法 ③大型機械



答え **89.2**

誤答例 ②(5.7) (知識・技能) ⑤

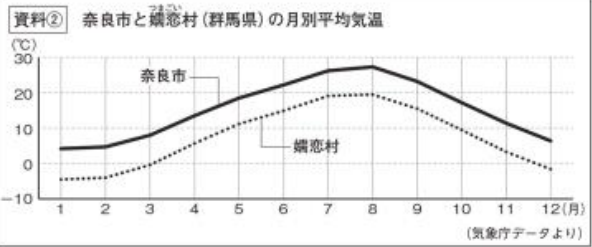
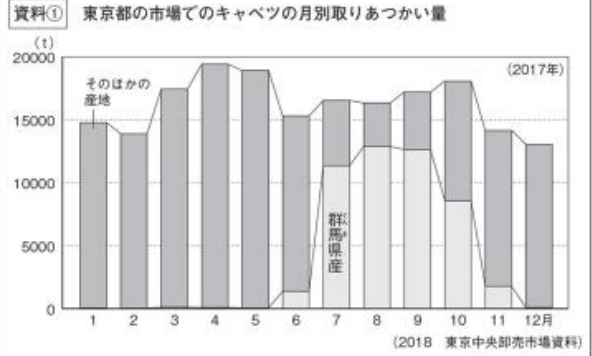
(い) 上の(あ)の問いで、そのように考えた理由を、選んだ言葉を使ってくわしく書きましょう。

答え

誤答(46.7) / うち無記入(8.7) (思考・判断・表現) ④

6 群馬県碓氷村のキャベツ作りの特色について、次の資料①と資料②の両方を使って説明しましょう。

※キャベツを育てるのに適した気温は15～20℃ですずしい気候を好みます。



答え

準正答(28.3) / 誤答(37.1) / うち無記入(15.2) (思考・判断・表現) ⑤

7 次の地図を見て、ア・イ・ウ・エの都道府県の名前を書きましょう。



※都・道・府・県まで正しく書きましょう。

ア	山形県	⑤ 56.5
イ	東京都	⑦ 77.9
ウ	奈良県	⑥ 93.5
エ	佐賀県	⑧ 52.6

(7)は全て知識・技能

ア 誤答例 他の東北地方の県(22.3)
 イ 誤答例 無記入(7.4)
 ウ 誤答例 無記入(3.4)
 エ 誤答例 他の九州地方の県(21.1)

1の考察

〔あ〕は「中華人民共和国」の名称について記述する「知識・技能」の問題で、正答率は65.2%であった。それぞれの国の様子や日本との関係について考えたり理解したりしながら学習を進めていくことが大切であると考え。

〔い〕は日本のまわりの海洋について記述する「知識・技能」の問題で、正答率は64.9%であった。誤答の大西洋と答えた割合は5.3%であり、太平洋と大西洋の区別ができていないことよりも調査結果を見ると、その他の解答や無記入の割合の方が多いことから日本のまわりの海洋についての理解が十分ではないことが考えられる。

〔う〕は地図を見て、東京から日本の西の端までの距離を読み取る「知識・技能」を問う問題である。正答率は62.3%であり、縮尺の500kmを使って答えを導き出すことを目的としていたが、日本の南北の長さを問われていると誤解したのか、28.8%が約3000kmと解答している。

〔え〕は地図上の地点の緯度・経度を読み取る「知識・技能」の問題で、正答率は29.1%であった。令和元年度の診断テストでも31.8%と低かったが、それをさらに下回る結果となった。「北緯140° 東経40°」を選んだものが53.9%もあり、誤答の割合として最も高い結果となった。前回の診断結果に引き続き、読図をする以前に、緯度・経度についての知識・理解が不十分であると考えられる。

日頃から、地図帳で緯度・経度を使って位置を表す学習をしたり、地球儀を普段から利用できる環境を整えたりすることが重要になり、地図帳を活用した学習を積極的に行っていくことが大切であると考え。

2の考察

「漁業者一人当たりの生産量」と「日本の漁業生産量」の2つのグラフを正しく読み取り、そこから生じる疑問を記述する思考・判断・表現を問う問題である。正答率は74.7%、誤答率は25.3%であった。うち無記入は9.3%である。児童の解答を以下のように分類した。

大問2	解答の分類	割合 (%)	
正答	「一人あたりの生産量」と「漁業生産量」の矛盾している関係性を正しく読み取り、「なぜ」疑問を記述しているもの。	74.7	
誤答	1つの資料のみに着目して解答しているもの	0.7	25.3
	資料の読み取りができていないもの	4.2	
	グラフの変化に着目していないもの	6.3	
	「なぜ」疑問になっていないもの	2.3	
	論述が明確ではないもの	1.6	
	問題とかけはなれた解答	0.9	
	無記入	9.3	

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査したものです。)

主な誤答は「グラフの変化に着目していないもの」が6.3%であった。これはグラフを点でとらえたためであると考えられる。グラフを読み取る際は、点でとらえさせるだけでなく、全体の変化をとらえさせることが大切で、授業の中でもグラフの変化を読み取らせるように心がけたい。また、無記入が9.3%と高い割合となっており、日頃から資料の中から疑問に思うことや考えたことを表現させる機会を設けることが大切である。

3の考察

〔あ〕は、「おもな食料別の自給率の変化」のグラフから、「米」を選択する「知識・技能」の問題で、正答率は70.2%であった。米の自給率が100%前後であるという日本の農業の特色を捉えさせることが大切である。

〔い〕は、グラフを読み取り、正しい文を選択する「知識・技能」の問題で、「野菜の自給率の変化」を読み取る正答率が61.0%、「果物の自給率の変化」を読み取る正答率が86.6%であった。主な誤答は①の22.2%で、グラフの縦軸の目盛りを正しく読み取れていないためであると考えられる。授業の中で資料を読み取らせる際には、縦軸や横軸の目盛りも丁寧に指導することが大切である。

〔う〕は、「地産地消」を記述する「知識・技能」の問題で、正答率は61.6%であった。「地産地消」は日本の食料生産を捉えさせる上で重要な取り組みの一つであるため、その用語と意味を十分に理解させたい。

4の考察

〔あ〕は自動車工業の工夫について選択する「知識・技能」の問題で、正答率はどちらも80%を超えていた。おおむね理解できていると考える。

〔い〕は自動車の国内生産と海外生産の移り変わりのグラフから、正しい語句を選択する「知識・技能」の問題である。正答率は93.5%と高かった。

これらのことから、自動車工業については、正しく理解できている児童が多く、資料も正確に読み取ることができていると考えられる。

5の考察

〔あ〕は、「ほ場整備（耕地整理）前後の土地のようす」と関係の深い資料を選択する「知識・技能」の問題で、正答率は89.2%であった。「大型機械」と「ほ場整備」を結び付けて理解している児童が多いことが分かった。

〔い〕は、〔あ〕の解答を選んだ理由を記述する「思考・判断・表現」の問題で、正答率が55.8%であった。児童の解答を次のように分類した。

大問5 [い]	解答の分類	割合 (%)	
正 答	ほ場整備の目的や内容と、選んだ資料にある大型機械がほ場整備によって活用できるようになることを正しく書けているもの	55.8	
誤 答	大型機械についてふれていないもの	1.0	44.2
	理由がちがうもの	20.5	
	論述が明確でないもの	6.7	
	問題とかけ離れた解答	9.9	
	無記入	6.1	

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査したものです。)

[あ]の記号を選ぶ問題の正答率に比べて、理由を正しく書けている児童の割合が低かった。大型機械を使えるようには場整備が行われたという目的に反して、「大型機械を使ってほ場整備をした」と記述している児童もいることから、2つの資料を正しく関連付けて捉えられていない児童が多いことが分かる。米の生産性を高める工夫や努力について、複数の資料を関連付けて説明するなどの学習活動を積極的に取り入れることで「思考・判断・表現」の力を身に付けさせることができると考えられる。

6の考察

群馬県嬭恋村の気候の特色を奈良市の気候と比較し、そこから嬭恋村の気候を生かした農業の特色について記述する「思考・判断・表現」の問題で、正答率は38.0%であった。児童の解答を以下のように分類した。

大問6	解答の分類	割合 (%)	
正答	資料①②の両方について、正しく説明できているもの	38.0	
準正答	資料①にのみ着目しているもの	3.3	25.0
	資料②にのみ着目しているもの	21.7	
誤答	2つの資料からわかることについて触れていない	7.6	37.0
	論述が明確でないもの	6.0	
	問題とかけはなれた解答	7.9	
	無記入	15.5	

(上記の結果は、何校かを抽出して追跡調査したものです。)

準正答は、25.0%であった。その中でも、多くの児童が資料②にのみ着目していた。嬭恋村は奈良市と比べて、夏は涼しい気候であることは読み取れていると考えられる。しかし、資料①のキャベツの出荷時期と嬭恋村の気候の特色を関連付けて記述することができていない児童が多かったと考えられる。複数の資料を読み取り、それらを関連付けて考察する学習活動を行っていくことで、社会的事象についてより深くとらえることができると考える。

7の考察

大問7は、都道府県の位置と名称について問う「知識・技能」の問題であった。正答率は、「山形県」が56.5%、「東京都」が77.9%、「奈良県」が93.5%、「佐賀県」が52.6%であった。「山形県」については、他の東北地方の都道府県名を記述した割合が22.3%であり、東北地方に山形県があることはおおむね理解しているといえるが、正確な位置を理解していないことが考えられる。この傾向は「佐賀県」についても見られ、自分たちが住んでいる地方と遠くなるにつれ、正確な理解が難しくなることが分かる。日本の首都である「東京都」、また私たちが住む「奈良県」については正答率を限りなく100%に近づけていけるよう、授業者も意識して指導していく必要がある。

都道府県の位置と名称は主として4年生で学習するが、5年生や6年生でも習熟度を確認し、地図帳で調べるなどして繰り返し学習していくことで、知識を定着させることができると考える。